

自由民権記念館だより

自由のともび

JIJU NO TOMOSHIBI

- 平成22年度特別展「幸徳秋水展—その生涯と思想—」
- 夏休み子ども歴史教室報告
- 友の会事業「長崎に兆民・龍馬を訪ねて」
- 平成22年度企画展「龍馬の遺志を継ぐもの—第4弾 中江兆民展」

VOL.
69
2010
September

「自由」「平等」「博愛」

幸徳秋水展

その生涯と思想

平成22年9月11日(土)~11月14日(日)

午前9:30~午後5:00

自由民権記念館 1階自由ギャラリー

● リレーエッセイ

通年企画展で

「龍馬の遺志」を問う

今年「龍馬の遺志を継ぐもの」という総合タイトルの下、4つの展示を企画しました。

第1弾として1-3月に「汗血千里の駒」の世界」展を開催。民衆の中に龍馬が英雄として登場した瞬間を取り上げました。著者の坂崎紫瀾、絵師の山崎年信・藤原信一についても展示しました。そして龍馬の課題が「世界に恥じない国家」の建設にあったことをはっきりさせました。第2弾として4-6月に「坂本直寛の生涯」展をしました。民権家たちにとって「世界に恥じない国家」とは国民の人権を保障する国家であることを示しました。現在、開催中の第3弾(7-9月)「海外に新天地を求めて」展は、海外に雄飛した者のうち高知県出身者で自由民権運動に関係のあった5人に焦点を当て、彼等が新天地を海外に求めた理由を問いました。

そして続く第4弾は「兆民から秋水へ」を予定し、さらにこの第4弾は9-11月の「幸徳秋水展—その生涯と思想—」、10-12月の「中江兆民展—自由・平等・平和を求めて—」に分けて開催する予定です。この第4弾では、「大國」になった明治国家は「世界に恥じない国家」になったのだろうかを問う予定です。

この一連の展示で、「世界に恥じない国家」の建設という龍馬が命をかけた課題が彼の死後どうなるのかが見渡せる気がします。そういう期待をこめてこの一連の展示を企画しました。後続企画展もご鑑賞ください。

(自由民権記念館館長 松岡 惇一)

幸徳秋水展

—その生涯と思想—

平成21年度特別展「幸徳秋水展」その生涯と思想」を9月11日(土)から11月14日(日)まで1階自由ギャラリーで開催します。ぜひご鑑賞いただきますようお願いいたします。

今回の展示では、秋水の「生い立ち」から「大逆事件」により刑死するまでの生涯と思想の変遷を紹介します。

1 生い立ち・家庭

秋水は、明治4年、幡多郡中村町に生まれました。小学校・塾ともに優秀で、「神童」と称されました。秋水の卒業証書や家業の薬種商の関係資料を展示します。

2 民権少年

少年のとき、高知は自由民権運動の



社会民主党発起人(前列左から2番目が幸徳秋水)

全盛期でしたが、中村は、民権派に対立した国民派の本拠地でした。そのような中で、成長する秋水の「民権少年として活躍」「東京遊学に失敗」のエピソードを紹介します。

3 兆民の書生になる

秋水は、明治21年、中江兆民の書生となりました。生涯にわたる師にめぐり合った瞬間です。新聞記者としての秋水や兆民とのエピソードを紹介します。

4 結婚

秋水は29才の時、師岡千代子と結婚し、母と三人の暮らしを始めますが、生活は苦しいものでした。姪、岡崎てるの思い出や秋水の日記から「千代子について」「貧乏生活」のエピソードを紹介します。

幸徳秋水

明治4(1871)年—明治44年(1911)年。高知県幡多郡中村町(現在の四万十市)出身。本名は幸徳傳次郎(こうとくでんじろう)。秋水の号は兆民から与えられたもの。

明治時代のジャーナリスト、思想家、社会主義者、無政府主義者。明治期から自由民権思想家の中江兆民に師事し、その影響を強く受けた。大逆事件の首謀者とされ他の11名とともに処刑された。

5 社会主義者となる

秋水は「自由党を祭る文」を発表し、翌年「我は社会主義者也」を宣言、自由党の残した課題は社会主義者が担うことを宣言しました。ここでは社会主義関係資料や社会問題の発生などを紹介します。

6 日露戦争に対して非戦論を唱える

この時期、世論を戦争熱に駆り立てるの力があつたのは新聞・雑誌です。そうした中、『平民新聞』を創刊し非戦論を主張し続けました。ここでは秋水の発禁図書『平民主義』やトルストイ『日露戦争論』などを展示します。

7 渡米

明治38年秋水は渡米。在米中に普通選挙無用論を学び、無政府主義の思想に近づきました。帰国後の第一声は、議会政策論から直接行動論へ運動方針の転換でした。秋水のアメリカからのハガキや渡米についてのエピソードを紹介します。

8 大逆事件により刑死

桂内閣は、社会主義者・無政府主義者への弾圧を強化しました。政府の言論弾圧が増す中、宮下太吉らは爆裂弾による天皇暗殺を計画し、秋水はその首謀者とみなされ明治44年1月に処刑されました。資料では、母への獄中書簡や絶筆の漢詩も展示します。



週間新聞「直言」(安芸市立歴史民俗資料館蔵)



幸徳秋水絶筆詩 記念碑(四万十市)

「中江兆民展」ご案内

●10月9日(土)〜12月19日(日)

2階 特別展示室

企画展龍馬の遺志を継ぐもの(第4弾) 特別展で取りあげる幸徳秋水が、兆民の愛弟子であったことはよく知られています。個性の強い二人が珍しく良き先生、良き弟子として接しています。特別展「幸徳秋水展」と企画展第4弾「中江兆民展」で兆民の何が秋水に受け継がれたのか、一緒に考えたいと思います。(8頁に関連記事を掲載しています)



兆民と息子の丑吉

龍馬の遺志を 継ぐもの展 報告

現在、県内で取り組まれている「土佐・龍馬であい博」を機に、こうちミュージアム ネットワークによる「幕末の土佐を知る21館合同企画展・志の時代展」が開催されています。

当館では同展に協賛し、通年企画展「志の時代―龍馬の遺志を継ぐもの―」を開催しています。第1弾の『汗血千里の駒』の世界展（68号で紙上報告）につづき、第2弾『坂本直寛の生涯展』を開催。現在、第3弾『海外に新天地を求めて』を開催中で多くの方々を運んでくださっています。今後の第4弾「中江兆民展」、特別展「幸徳秋水展―その生涯と思想―」をご鑑賞いただきますようお願いいたします。



龍馬の甥で関心も高く大好評でした

（第2弾） 坂本直寛の生涯展 好評で終る

4月10日（土）から6月27日（日）の会期で「龍馬の遺志を継ぐもの第2弾―坂本直寛の生涯―展を開催しました。

龍馬の甥ということもあり、関心をもたれ好評のうちに幕を閉じました。

先に開催した同展第1弾『汗血千里の駒』の最後の挿絵は、この坂本龍馬の甥・坂本直寛（南海男）が政談演説している挿絵で飾り、著者の坂崎紫瀾は「龍馬の残した課題は今自由民権運動が担っている」という意味合いのコメントをして幕を閉じています。

そこで第2弾の展示では、坂本直寛の生涯をたどりながら、民権家たちは「世界に恥じない国家」をどのように構想したのかを示しました。それは民権家たちにとって自由民権運動は何をめざす運動であったのかを示すことでもありました。



「坂本直寛の生涯展」会場

この展示のもう一つの見どころは、キリスト教の洗礼を受けた後の坂本直寛の後半生でした。北海道に「潔き義に生きる神の国」を建設しようと北光社という開拓会社を設立し渡道、その後夕張炭鉱の坑夫を中心とした労働組合・労働至誠会の設立、日露戦争時には義戦論を展開、その後囚人への伝道をしてその生涯を終えました。そのとどまるころを知らない活躍は、明治という時代への期待の裏返しでした。

少し難しい展示でしたが、見に来てくださった人たちの反応を見る限り、その意図は伝わった気がします。ありがとうございます。

【関連企画】
4月24日に「坂本直寛の生涯」のテーマで当館館長松岡信一が講演を行いました。

（第3弾） 海外に新天地を求めて展 開催中

現在、第3弾「海外に新天地を求めて」を7月10日（土）から9月26日（日）まで2階特別展示室で開催しています。

龍馬は藩の利害を超えた「世界に恥じない国家」の建設をめざしながら、同時にその国家にさえ拘束されない自由人として世界に雄飛する希望を持っていたようです。明治になって夥しい人が海外に新天地を求めました。今回は、その中で土佐出身かつ民権運動に関係した西原清東、奥村多喜衛、水野龍、崎山比左衛、森小弁の5人の人物を取り上げています。かれらは、いずれも興味深い人生を送った人たちです。かれらが新天地に向かった理由は同じで



「海外に新天地を求めて」展を熱心に見入る子どもたち

はありません。ただはつきりしているのは、いずれも言葉の違いは勿論、気候・風土・習慣の異なる新天地に不安を抱きながらも新天地に希望を見出したことです。かれらが見出した日本には無い希望とは何であったのでしょうか。

また、「世界の海援隊」を実現させた岩崎弥太郎と日本郵船についても紹介しています。ご来館をお待ちしております。

【関連企画】
7月17日（土）にブラジリア大学准教授根川幸男氏の記念講演を開催。「よかい、To sanaki、マツリダンス―体験的ブラジル移民とサンパウロ東洋街―」のテーマで行い、多くの映像資料で紹介していただきました。

（第4弾） 「中江兆民展」 開催予定

10月9日（土）～12月19日（日）
2階特別展示室
特別展「幸徳秋水展―その生涯と思想―」と合わせてご鑑賞ください。

平成22年度

夏休み子ども歴史教室の報告

7月22日(木)、自由民権記念館では高知市教育研究会社会科部会との共催により、恒例の「夏休み子ども歴史教室」を開催しました。

自由民権運動の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などで楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらうと始めたこの行事も、今年で14回目を迎えました。昨年までは、小学3年生から受け入れていましたが、150名を超える応募があったため、今年はやむなく4年生以上としました。参加者は、高知市内の小学4年生から中学1年生までの88名(小学生87名、中学生1名)。運営スタッフは、高知市教育研究会社会科部会の先生方11名、「高知県民謡協会」の皆さん5名、劇団「笛の会」の皆さん5名と当館の職員でした。



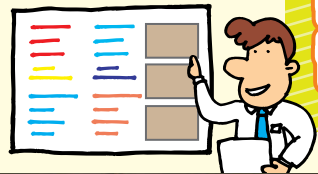
館長の説明を聞く子どもたち



初めて出会った友たちと仲良く会場へ

当日、定刻どおりに開会式が始まり、当館館長が挨拶の冒頭で板垣退助の銅像の写真パネルを出して「この人、誰かわかる?」と問い掛けると、子どもたちから元気よく「いたがきたいすけー」と答えが返ってきました。さすが、歴史を学ぶ意欲満々の子どもたち。頼もしいかぎりです。その後、先生のオリエンテーションに続き、当館制作の「自由民権って、何?」のビデオ鑑賞をして予備学習も完了。

10班に分かれて、クイズラリーのスタートです。クイズラリーは5つのチェックポイントからなり、各チェックポイントでの課題をクリアすると、ラリーマップに「民権家スタンプ」を押してもらえます。スタンプが5つ揃えばラリー完了です。



■第1チェックポイント

高知県民謡協会のみなさんの三味線と太鼓の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。最初は戸惑い気味だった子どもたちですが、民謡協会さんのご指導のおかげで元気よく歌いきりました。

■第2チェックポイント

自由民権運動の時代に実際に作られ、遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験しました。

■第3・第4チェックポイント

常設展示室の展示物の中からヒントを探しクイズに答えます。ちょっと難しい問題もありましたが、みんな投げ出さず一生懸命に挑戦してくれました。

■第5チェックポイント

劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに



参加者全員での記念撮影

答えます。

今年はお出演者に聴衆の青年役が加わり、また、劇中劇として板垣退助が襲われた事件の再現シーンがあったりと、例年にして迫力のあるお芝居に、子どもたちは目を丸くしていました。そのうちに自身が聴衆の一人となって、かけ声をかけたり、拍手をしたりしてお芝居を大いに盛り上げてくれました。

5箇所すべてのチェックポイントを参加者全員がクリアし、民権ホールに戻って閉会式、その後大階段で記念撮影をして、無事解散となりました。

閉会式の先生の講評で、参加者のみなさんはとてもマナーがよく、気持ち良く、また楽しく取り組んでいましたとの言葉がありました。来年も、開催の予定ですので、たくさんのご参加をお待ちしています。

— 高知市立自由民権記念館 学校教育連携事業 —
第11回社会科自由研究作品展募集

当館では、学校教育連携事業の一環として、平成12年度より社会科自由研究作品展を実施しています。この作品展は、子どもたちが身近な郷土の歴史や様々な事柄について関心を持って学び、その成果を発表する目的で開催するものです。皆様のご出品をお待ちしています。

- 主催:高知市立自由民権記念館
- 共催:高知市教育研究会社会科部会
- 応募要領
 - 募集期間 平成22年11月2日(日)～11月30日(日)午後5時(必着)
 - 応募作品及び規格
 - (1) 高知市内の小・中学生の社会科に関する研究作品
 - (2) 規格については、特に制限はありません。
(ただし、展示面積は1作品につき模造紙全紙の1枚程度までとします。)
 - (3) グループでの制作作品も可とします。
 - 募集点数 **1校20点以内、1人(1グループ)につき1点とします。**
 - 応募方法及び応募先
各学校に配布の応募用紙及び出品票に必要事項を記入し、
(出品票は作品に貼付) **学校を通して高知市立自由民権記念館に提出してください。**
- 作品展の日程 平成23年1月22日(土)～2月24日(木)(予定)
※原則、全応募作品を展示します。また、特別賞表彰を行います。
- その他
応募作品は、作品展終了後に各学校を通して返却いたします。

(お問い合わせ先) 高知市立自由民権記念館
 〒780-8010 高知市棧橋通四丁目14-3
 TEL/088-831-3336 FAX/088-831-3306



第1チェックポイント



第2チェックポイント



第3チェックポイント



第4チェックポイント



第5チェックポイント



7月13日、スラバヤ市の中学生6名と引率者の11名が来館し、常設展示など熱心に見学されました。
 当日は多くの時間をとれなかったのですが、松岡館長が常設展示を説明。その自由民権運動の歴史や近代国家の樹立に若者た

**スラバヤ市教育交流
 訪問団来館する**

ちの活躍があったことなど大変興味をもたれ、質問もあり予定時間を超える様子でした。
 インドネシア共和国スラバヤ市と本市は、平成9年4月17日に姉妹都市の提携をしました。その後、相互理解・国際親善の進展を図ることを目的に交流事業が行われています。スラバヤ市教育交流訪問団の来高は平成10年から行われ、今回で9回目の来高となります。



スラバヤ市の中高生たち



～長崎に兆民と龍馬を訪ねて～ 風頭公園の龍馬像 2010年5月14日 撮影・土居利光氏（友の会幹事）

自由民権記念館友の会バスツアー ～長崎に兆民・龍馬を訪ねて～

5月13日～15日（2泊3日）13名が参加し、「長崎に兆民と龍馬を訪ねて」高知&長崎交流の旅」研修会を行いました。
ここに同友の会幹事溝渕栄子氏の旅の報告を掲載します。

長崎では智多副市長の出迎えを受け、岡崎高知市長の親書をお渡しできました。

連日、晴天に恵まれ※さるくガイドの皆さんのご案内で長崎市内の視察研修を終えることができました。

長崎コンベンション協会の武田さんが最近まで3年間高知の近畿ツーリスト支店長をつとめたご縁で、さるく観光の手配をスムーズに行うことができました。長崎龍馬会本部の風雲児焼き鳥竜馬で交流会もあり自由民権と龍馬問答など歴史交換ができたのもよい体験でした。

長崎の館の内容や案内の施設ボランティア、市内を案内するボランティアのさるく観光ガイドの様子にこれからの高知市立自由民権記念館友の会として学ぶことが多々ありました。今後の活動に活かして行きたいと思います。

※さるく（長崎弁）は、ぶらぶら歩く。

自由民権記念館友の会 新規会員募集中 ～入会のご案内と特典について～

自由民権記念館友の会は、自由民権運動に関心をもち、歴史を学び自由民権の精神を現代に生かしたいと思う人は誰でも会員になれます。新規入会の希望者は同記念館内友の会事務局にお申し込みください。年会費2000円。ただし、10月以降の中途入会の方は、その年度に限り半額の1000円です。なお、入会申し込み及び会費の入金は、振り替え用紙でお願いいたします。

※友の会会員になりますと、次のような特典があります。

- 会員証を発行しお渡ししています。
- 会員の皆様には、友の会および、自由民権記念館が主催する講座・講演会・研究会その他の事業へのご案内をしています。
- 自由民権記念館の「常設展」へのご優待（常設展を見学する時は、友の会の会員証を提示して下さい）。
- 会員の皆様には、友の会が発行する機関紙『民権の炎』および、『友の会ブックレット』を、各発行毎に無料（郵送）で差し上げています。
- 自由民権記念館が発行する、各種の図書・資料が実費で購入できます。

自由民権記念館友の会事務局
TEL 088-183-1133

山本憲関係資料
「松本正守血染めの帯」

明治15年12月16日、大阪府東区北久宝町第一楼の「忘年自由平権懇親会」後、元立志社員松本正守は徳島県美馬郡猪尻村の士族桜間要三郎に刺殺された。

松本は築屋敷（高知市）に住し、明治13年の国会開設請願書には土佐郡秦泉寺村712名総代として名をつらねた。その後上阪して、15年6月に江口三省、寺田寛らと大阪自由党を結成。9月、代官人を開業した。気性はかなり激しかったようだ。人力車夫など都市労働者の団結につとめ、被差別部落民解放を主張し、自由平権懇親会を開催した。

殺された松本は「自由の犠牲者」とされ、翌年開かれた「故松本正守一周年自由平権懇親会」には120人が集まった。事件の背景には、自由、改進黨の政治的対立があったとみられる。

殺害犯桜間の弁護は改進黨の代官人大岡育造が引き受け、その行為は酔った松本からの暴行を防ぐための正当防衛だったと主張。明治16年7月12日、大阪軽罪裁判所はこれを認めて無罪判決を下した。事件が起こったとき、山本憲は『北陸自由新聞』記者として越前にいたが、留主許に頼んで血痕が染みだした松本の帯の切れ端を入手し保存した。



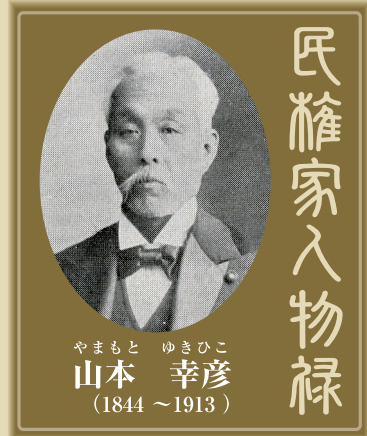
「吉松寿太郎遺書」

尻無川事件は自由党激化事件のひとつで、吉松寿太郎、佐野義一ら修立社の活動家が、伊藤博文ら政府高官の暗殺目的で上阪。資金協力をためらう沢田久万吉の口から陰謀が露顕することを恐れ、明治20年1月2日夜、大阪府下尻無川堤防で殺害し逃亡した。まもなく一味は捕縛され、翌年7月24日、大阪重罪裁判所は吉松寿太郎・佐野義一に死刑、間直三・下村治幾に無期徒刑、沢田良吉・大井善友に重禁錮3年罰金30円の判決を下した。吉松寿太郎は、元治元年3月10日、吾川郡浦戸村（高知市）の酒造業「山口屋」の二男に生まれた漢詩人で、桂門と号した。獄中キリスト教に帰依して獄則を遵守。看守が連名で減刑を願ひ出るほど深く悔悟したが、明治22年4月15日、刑を執行された。

遺書は、死刑執行当日、弁護にあつた代官人吉松松吉・戸田猛馬・寺田寛と友人山本憲に宛てて書かれた。永別を告げる内容は当時の『土陽新聞』にも掲載されており、「筆蹟は平日と異ならず最も立派に出来居し」と報じている。



民権家入物録



天保15年11月27日、高知城東南新町（高知市桜井町）で西山嘉蔵の四男に生まれ、後に山本幸の養子となる。西山志澄（前回68号で紹介）は兄。

1875（明治8）年、高知県庁に勤めるが、2年で免職。1877（明治11）年7月、供興社長として、愛国社再興の決議メンバーに名を連ねる。9月、大坂で開かれた愛国社再興第1会に参加する。翌年公選により北町などの町村の戸長を務める。その翌年1月、山形県酒田へ赴き、演説会を行う。1881（明治14）年2月、高知師範学校の高知教育会規則会議監事に就任。6月、新市町で板垣退助・片岡健吉・坂崎斌を招待し、北町懇親会を開く。7月、追手筋小学校で共立学校発起人会が開かれ、発起人の一人として参加。1882（明治15）年5月、稲荷新地香雲閣で海南南自由党高知下町組合が組織され、議長に選出される。高知師範学校長、同女子師範学校長など

を歴任したが、翌年1月、伊集院県令、入県後病臥し、太田書記官が代理として県政大改革に取り組み、公立師範学校・中学校長であった山本を「自由主義者」を理由に罷免。6月、高知共立学校幹事に当選。8月、関西大懇親会出会のため上阪。同29日、板垣が帰県すると片岡健吉らと新田板垣邸へ赴く。翌日、丸山台で板垣総理迎待大懇親会が開催され、発起人総代として開会の主旨を述べる。1884（明治17）年5月、高知共立学校校長就任。翌年12月、後楽館で立志社13年期祝宴にあたり立志社主意書を朗読。

1887（明治20）年9月、坂本直寛・植木枝盛等と後楽館に会し、三大事件建白書を複写。10月8日、高知九反田坂本直寛宅に会し、三大事件建白書提出方法を議決し、同15日北街総代として上京。保安条例の適用を受けて投獄される。

1889（明治22）年出獄、4月27日、海南倶楽部員として大同団結委員会出席のため上京。大同倶楽部常議員となる。7月『政論』社長となり、中江篤介を主筆に招き、日刊新聞として再刊。翌年1月、大同倶楽部臨時常議員を辞職。その後、伊藤博文の立憲政友会組織にも加わり、1898（明治31）年高知県より選出されて代議士となった。以来当選3回。

1913（大正2）年5月23日没。70歳。

常設展示 Q&A

- 10 -



Q 第1展示室で「自由党結成」の後、明治15年5月7日「海南自由党結成」との表示がありました。自由党高知支部のようなものですか?教えてください。

A 「自由党規則」では、地方に地方部を設けることとしていたので、土佐ではそれに従い「海南自由党」を結成しました。1882(明治15)年5月7日潮江村要法寺に自由主義派の総代が集まり、「海南自由党規約」と「海南自由党規則」を決議。翌日常備委員に片岡健吉や島地正存・武市安哉・竹村太郎・吉良順吉を選出、統一して海南自由党を自由党に合同することを決定しました。立志社の任務を肩代りすることになったのです。立志社は明治15年の集会条例改正追加の際、条例が適用されない親睦団体に变身。同年3月20日に解散を決定し、10年の歴史を閉じました。社屋は後楽館と称され海南自由党本部にあてられました。

自由民権記念館出版図書 好評頒布!

自由民権記念館出版図書及び当館友の会取り扱いの書籍が、館内で販売しております。出版した図録で人気があるのは次のとおりです。

- 第1位『自由民権記念館―常設展示の案内―増補改訂版』
(1995年発行 B5版95頁1200円)
- 第2位『立志社―その活動と憲法草案』
(1998年発行 B5版100頁1000円)
- 第3位『明治の女性』
(1996年発行 B5版91頁1000円)

特に、最近『明治の女性』が人気を呼んでいます。この図録は、明治前期の女性史に焦点を当て、特に土佐における女性の自由民権運動へのかかわりを中心に紹介しています。自由民権運動に身を投じた彼女たちの自律的・主体的な生き方が、現代社会において多くの支持を得ているのでしょう。なお、郵送販売も行っています。書籍代・送料は前払となりますので、電話・FAX・ハガキでご注文ください。



自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

企画展「龍馬の遺志を継ぐもの」第4弾
「自由・平等・平和を求めて」
企画展―志の時代―龍馬の遺志を継ぐもの―第4弾「中江兆民展―自由・平等・平和を求めて―」を自由民権記念館2階特別展示室で10月9日(土)から12月19日(日)まで開催します。

今回の展示では、兆民の生涯を概観し、それぞれの時期に関係した事件・人物・エピソードを通して、兆民の人物像を浮び上がらせ、かつその業績を紹介します。1882年、兆民は経営する仏学塾から『政理叢談』を発行し、「民約訳解」を連載、この頃から「東洋のルソー」と呼ばれるようになります。1887(明治20)年頃を境にして使用され始めましたが、これは

彼が億兆の民の為に生きる決意を示しています。兆民は、数々の奇行でも有名です。この奇行の裏にある兆民の真意は何だったのでしょうか。なお、秋水が兆民の愛弟子であったことはよく知られています。その意味で「秋水展」より「兆民展」が先行するべきですが、いろいろの事情によりこうなりました。個性の強い二人が珍しく良き先生、良き弟子として接しています。兆民の何が秋水に受け継がれたのか、興味深いところです。このことを一緒に考えたいと思います。ご鑑賞いただきますようお願いいたします。



なかえ ちようみん
中江 兆民
(1847-1901)

土佐国高知城下に足軽元助の長男として生まれる。幼名竹馬、長じて篤助・篤介、兆民と改名。自由民権家、新聞記者、著述業、思想家。土佐の人脈ではなく大久保利通に直訴してフランスに留学。帰国後、東京外国語学校校長や元老院書記官になったりしたが、何れも長続きしなかった。1881(明治14)年、フランス留学時代に知り合った西園寺公望と共に『東洋自由新聞』を創刊し、自由民権運動の一翼を担った。以後、『自由新聞』、『政理叢談』、『東洋新聞』、『政論』、『立憲自由新聞』、『北門新報』などの新聞・雑誌を創刊して活躍する。また、多くの著作を出版した。中でも『民約訳解』、『維氏美学』、『三酔人経綸問答』、『一年有半』などは有名。明治34年没(享年55歳)。

特別展「幸徳秋水展―その生涯と思想―」合同企画 高知近代史研究会 (第52回) のご案内

[テーマ] 日露戦争と非戦論

[報告者] 松岡 信一
(自由民権記念館館長)

■10月16日(土)
午後3時～5時
■自由民権記念館 1階 民権ホール
■入場無料
(どなたでも自由に参加できます)

幸徳秋水は、初期社会主義者の一人として、また、日露戦争時には激しく非戦論を展開した一人として、そしてそれが遠因となり、大逆事件で刑死したことによって近代日本史に名を刻んでいます。

今年は大逆事件検挙100周年、来年は秋水没後100周年の年にあたります。秋水を見つめることは、わたしたち一人ひとりが自ら平和とは何か、「世界に恥じない国家」とはどのような国家なのかという問いを發することでもあります。

[お問い合わせ先] 自由民権記念館内 高知近代史研究会事務局